

特集

通信技術の未来を切り拓く学生論文特集の発行にあたって ——研究は論文にして初めて完成する——



通信技術の未来を切り拓く学生論文特集編集委員会

委員長 山里 敬也

「通信技術の高度化・発展をよりいっそう促進するためには、将来の研究開発を担うことが期待される学生諸氏が活躍できる場をできるだけ多く設けることが必要である。そしてその場を提供することが学会の重要な役割の一つと考えている」第1回学生論文特集号の巻頭言で菊間信良委員長（当時）が述べたように、本特集は、学生諸氏の研究活性化、論文発表の場として企画されたものである。第4回となる本特集号には、これまでの最多となる論文72編、レター9編の投稿があった。厳正な審査の結果、最終的には論文28編、レター6編を採録することとなった。御投稿頂いた方々、論文査読に御協力頂いた査読委員の方々、企画及び編集に御尽力頂いた編集委員各位、並びに事務局の奥村様に深く感謝申し上げます。特に編集委員の皆様には、著者通知文に対する幹事団からの修正要求に対し、真摯にかつ適切にご対応頂いたことに感謝したい。このような修正要求を出したのは理由がある。どの投稿論文も研究内容が素晴らしいのである。これを受け、著者通知文については採録条件等がクリアになるよう一字一句、隅々まで吟味した。また、残念ながら不採録となった論文についても、再投稿を促すだけでなく、再投稿時に配慮頂きたいポイントを追加した。是非

「論文の書き方講座」を参考に、内容をブラッシュアップして再投稿頂きたい。

自身が科学者であり文筆家でもあった寺田寅彦は「研究の結果をちゃんと書き上げ磨きあげてしまわなければ其の研究が完結したとは云われない」と、書いている。電磁誘導の法則を発見したマイケル・ファラデーは「Work, Finish, Publish」と言ったそうである。英語のイディオムに「publish or perish」があるように、研究は研究だけでは完結しない。研究成果を論文として発表することによって初めて完成するのである。この特集をきっかけとして、多くの学生諸氏が論文投稿することを期待する。

やまざと たかお
山里 敬也（正員） 昭63 信州大・工・電子卒。平2 同大大学院修士課程了。平5 慶大大学院博士課程了。工博。同年名大・工・電子情報・助手。平10 同大・情報メディア教育センター・助教授。平16 同大・エコトピア科学研究所。平19 同大・エコトピア科学研究所・准教授。平22 同大・教養教育院・教授。現在に至る。平9 より平10 まで、ドイツカイザーズラウテルン大・客員研究員。センサネットワーク、変復調理論、可視光通信、eラーニングなどの研究に従事。IEEE 会員。平7 本会学術奨励賞受賞。平17 本会基礎・協会ソサイエティ特別功労賞受賞。平17,20 本会通信ソサイエティ活動功労賞受賞。IEEE Communication Society 2006 Best Tutorial Paper Award 受賞。

通信技術の未来を切り拓く学生論文特集編集号編集委員会

委員長	山里 敬也
幹事	高橋 応明・佐波 孝彦
委員	石川 博康・王建 青・大川 貢・大島 正明
	大西 輝夫・小川 猛志・加藤 寧・可児 淳一
	坂井 栄治・笹森 崇行・佐野 裕康・塩川 茂樹
	末田 欣子・瀬戸 一郎・高橋 徹・寺島 美昭
	中野 雅之・西森 健太郎・濱住 啓之・船越 裕介
	馬杉 正男・宮田 英之・森山 敏文・柳生 智彦
	山井 成良・山崎 憲一・吉原 貴之・和田 忠浩